

# 桐生西ロータリークラブ週報



2018-19年度RIテーマ

バリー・ラシンRI会長

BE THE INSPIRATION インスピレーションになろう



例会日時 毎週金曜日 12:30～13:30  
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス  
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp TEL 0277-22-9155  
 URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi FAX 0277-44-2777  
 会長 正田恵一 幹事 浦野幸子 クラブ会報・雑誌担当 鳥島隆一  
 公共イメージ委員長 加藤努 委員 羽鳥 隆、金子福松(歴史編集・IT-CICO担当)、塚本 貢、唐澤雅弘

No. 2155

2019年3月22日発行



## 第2284例会 (2019・3・15) 報告



### 健康管理担当 家族会合同早朝健康診断 実施

家族会と合同の早朝健康診断を、3月15日(金)午前7時から、桐生メディカルセンターで行いました。

当日は会員40名、家族会員7名が健診致しました。

今回から開始時間7時厳守ということで、定刻の少し前からのスタートとなりましたが、7時30分をまわった頃には殆どの方が検査を終了し、スムーズに進みました。

例年通り、健康管理担当の東郷庸史会員と野田真一郎会員の2名のドクターが血圧測定を、恵愛堂病院さんと

希望の家療育センターきぼうの各々2名の看護師さんに採血を、桐生市臨床検査センターの検査技師さん2名には尿検査を担当して頂きました。毎年、皆様には早朝より快くお手伝い頂いて、心より感謝申し上げます。

検査が終わった方から順に、SAAさん特製の朝食をお持ち帰り頂いて、終了となりました。

この検査の結果は、4月19日(金)第2289例会で、東郷庸史会員からご報告頂くことになっております。



浦野幹事と臨床検査技師さん



野田先生いつもありがとうございます



東郷先生今年は早くからありがとうございます



看護師の皆様にご感謝です



7時を過ぎると、検査を待つ長い行列が出来ました。



採血が一番時間が掛かります。看護師の皆様ありがとうございます



通 告



3月8日(金) 第2283例会

公益財団法人 大川美術館  
館 長  
田 中 淳 様

『大川美術館  
開館30周年に向けて』

この度はお招きいただき、ありがとうございます。おかげさまで公益財団法人大川美術館は、今年4月に開館30周年を迎えることができます。

また、当美術館創設者であり、初代館長であった大川栄二が、もっとも愛した画家が松本竣介(1912-1948)でした。昨年は、その松本竣介の没後70年にあたりました。

そこで、二つを合わせた記念事業として、昨年、すでにない竣介のアトリエを再現するプロジェクトを企画しました。その資金を得るためにクラウドファンディングに挑戦したところ、各地からご支援いただき、特に桐生の皆様からは、厚いご支援をいただきました。貴ロータリークラブの会員のみならず、多くご支援いただきましたので、あらためてお礼を申し上げます。

さて現在もアトリエの展示は、当美術館の展示室内でご覧いただけますが、この展示と並行して、昨年10月から今年12月まで、つぎのように松本竣介の作品をもとにした4つの企画展を開催、もしくはこれから予定しています。

「アトリエの時間」 2018年10月13日—12月 2日

「読書の時間」 2019年 1月22日— 3月24日

「子どもの時間」 同 4月16日— 6月16日

「街歩き的时间」 同 10月 8日—12月 8日

つぎに、これらの4つの展示会の趣旨についてお話しさせていただきます。

まず「アトリエの時間」展では、画家のアトリエがあった「場所」(新宿区下落合)と、アトリエにあった画材や日用品等、さまざまな「モノ」に焦点をあてました。

第2回目の「読書の時間」では、画家の多数の蔵書を主役にする事で、画家の知性(智)を考えてみました。

そして4月から開催される「子どもの時間」展では、その主役となるのが子どもの絵です。といっても、その背後にある画家の情愛、とりわけ家族、子どもへの愛(情)がテーマです。無垢な子どものイメージをもとにした作品と、現実には絵を描くまでに成長した子息の絵に触発された作品とをご覧いただくことで、画家の豊かな情愛の表現をご覧いただければとおもっています。

今年秋に開催の「街歩き的时间」展では、描かれた都市風景が中心となります。これらの作品は、この画家にとって、もっとも完成度の高く、また評価の高いものです。作品には昭和戦前期の東京の街が描かれているのですが、一方でこの桐生には、昭和戦前期の建築が数多く保存されています。そこで、美術館で作品をご覧になったら、松本竣介が描いた作品の時代に入り込むように、桐生の街を歩いていただければと考えています。そのためにも、みなさまから、桐生の街についてのいろいろのアイデアや情報をいただければと期待しています。

どうぞ、これからも、ご協力とご支援のほどよろしく申し上げます。

《次例会予告》

3月31日(日) 第2分区A IM&宮内ガバナー歓迎会  
点鐘 15:30、会場 桐生プリオパレス

“大川美術館館長 田中 淳(あつし)様プロフィール”

- ・1955年 東京生まれ。千葉県在住。
- ・1983年 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程を修了し、東京国立近代美術館に勤務。
- ・1994年 東京国立文化財研究所に移る。
- ・2014年 同副所長
- ・2016年 定年退職。現在も客員研究員として岸田劉生の研究を続けている。

松本竣介没後70年・大川美術館開館30周年記念企画 vol.3

松本竣介  
子どもの時間

開催期間：  
2019年4月16日～6月16日

1989(平成元)年4月に開館した大川美術館は、2019(平成31)年4月に開館30周年を迎えます。記念事業の一環として、本年度第一弾の企画展「松本竣介 子どもの時間」展を開催します。



松本竣介《コップを持つ子ども》  
1942年12月 個人蔵

画家は、《せみ》(1948年・個人蔵)など、次男莞のナイーヴな絵に触発されて、これを硬質で透明感のあるマチエールの画面に転写し作品としました。また同時に、《りんご》(1944年・個人蔵)など、子どもをモデルにした作品も数多く描いています。子どもが描いた絵、そしてモチーフとして子どもを描いた作品、さらに本展では、戦中に竣介が、疎開先の愛息・莞に宛てて書き送った書簡もあわせて展覧します。松本竣介という画家が子どもの未来に託したあたたかな希望を鑑賞していただければ幸いです。

本展は、当館の30周年事業として、これからの30年に向けて、次の時代をになう子どもたちの創作にも注目し、これからの桐生の地にふさわしい美術館の未来を考える契機にしたいとおもいます。会期中は、館内に「子どものアトリエ」を特設し、来館者に子どもたちの現在の創作をみていただけます。また、「特別出品」として、本展図録にエッセイを寄せていただいた現代のアーティスト奈良美智、片山真理の新作、近作を紹介し、松本竣介に魅せられた両アーティストの子どもに向けるまなざしの現在をご覧いただけます。

松本竣介没後70年・大川美術館開館30周年記念企画 vol.2

松本竣介 読書の時間  
3月24日(日)迄

「アトリエの時間」では、画家がアトリエで過ごした時間に思いをはせながら、画家と作品(創作)との間を結びつけ、創作の内側を考察しました。今回「読書の時間」では、大切に保管されてきた画家の蔵書に注目します。900冊を超える蔵書は、美術ばかりではなく、思想、哲学、文学等、多岐にわたります。松本竣介は、画家であり、読書家であり、愛書家であったといってもいいでしょう。そして、今日まで保存された蔵書全体は、昭和戦前、戦中期に育まれた市井の知性のひとつの集積であり、その時代の貴重な資料ともいえます。本展では、これらの蔵書を、今日的な視点から見つめなおし、松本竣介という画家の創作と思想の形成を再考します。



vol.1「アトリエの時間」で再現した松本竣介のアトリエ